

58年度総合検診二次検診結果について

厚生連総合検診センター 小川 忠邦 阿部 修平
松井 規子 林 隆恵
岸 宏栄

昭和57年度に引き続いて昭和58年度（58年4月～59年3月末日）における総合検診受診者の二次検診結果について報告する。

1. 胃部二次検診結果

表1に示すとおり、総合検診受診者2,625名の内、胃の精密検査を必要とする者は357名、13.6%であり、男性では204名、16.8%、女性では153名、10.8%であった。

その内、二次検診を受診した者は241名、67.5%であった。男性の二次検診受診率は、62.3%、女性の二次検診受診率は74.5%、女性の受診率は男性より高かった。（57年度、二次検診受診率は58.0%）

表1 胃部二次検診結果 58年4月～59年5月末日現在

性別	総合検診受診者 (A)	要二次検診者 (B)	要精検率 $\frac{(B)}{(A)} \times 100$	二次検診受診者 (C)	二次検診受診率 $\frac{(C)}{(B)} \times 100$
男	1,214	204	16.8	127	62.3
女	1,411	153	10.8	114	74.5
計	2,625	357	13.6	241	67.5

表2に胃部二次検診受診者の結果について示した。胃部二次検診受診者241名の内、68名（28.2%）の者には異常は認められなかった。異常を認められた者の内訳については、第1位は胃炎89名、36.9%、次いで胃ポリープ28名、11.6%、胃潰瘍25名、10.4%、胃癌13名、5.4%、胃粘膜下腫瘍6名、2.5%、胃潰瘍瘢痕3名、1.2%、十二指腸潰瘍3名、1.2%、十二指腸潰瘍瘢痕2名、0.8%、十二指腸ポリープ1名、0.4%、その他3名、1.2%の順であった。

表2 胃部二次検診結果内訳

58年4月～59年5月20日現在

所見名 性別	胃 癌	胃 粘 膜 下 腫 瘍	胃 ポ リ ー プ	胃 潰 瘍	胃 潰 瘍 瘢 痕	十 二 指 腸 ポ リ ー プ	十 二 指 腸 潰 瘍	十 二 指 腸 潰 瘍 瘢 痕	胃 炎	そ の 他	異 常 な し	計
男	9	2	6	18	3	1	3	1	49	2	33	127
女	4	4	22	7	0	0	0	1	40	1	35	114
計	13	6	28	25	3	1	3	2	89	3	68	241
%	5.4	2.5	11.6	10.4	1.2	0.4	1.2	0.8	36.9	1.2	28.2	100

表3は、胃部二次検診者の内、胃癌が13名発見された。総合検診受診者2,625名の内、胃癌発見率0.5%と、非常に高い数値を示している。胃癌と診断された者の総合検診受診回数及び内視鏡検査結果からみた胃癌の進行度を調べたものである。

早期癌発見者は、初回受診者には3名、継続受診者には4名であった。進行癌は、初回受診者に5名、継続して受診していた者に1名あった。早期癌発見には、継続受診が望まれる。

表3 胃癌発見者の検診受診回数及び癌の進行度

回数	区分 性別		早期癌		進行癌	
	男	女	男	女	男	女
初回	2	1	3	2		
2回目	2					
3回目	2					
4回目						1
計	6	1	3	3		

表4は年代別、性別、胃部二次検診結果を示した。

表4 年代別、性別胃部二次検診結果

昭和58年4月～59年5月末日現在

性別	年齢	要二次検診者	異常なし	胃癌	胃粘膜下腫瘍	胃ポリープ	胃潰瘍	胃潰瘍癒痕	十二指腸ポリープ	十二指腸潰瘍	十二指腸潰瘍癒痕	胃炎	その他
男	29才以下	2											
	30～39	25	5				2	1		1			7
	40～49	40	4				3	2	1	1			9
	50～59	85	12	5		3	10						21
	60～69	43	9	4	2	2	2			1			9
	70才以上	9	3			1	1						
女	29才以下	1											1
	30～39	9	2										3
	40～49	32	4	1		6	3				2		11
	50～59	62	12	2	2	13	3						12
	60～69	47	17	1	2	3	1						13
	70才以上	2											
計	29才以下	3											1
	30～39	34	7				2	1		1	2		10
	40～49	72	8	1		6	6	2	1	1	2		20
	50～59	147	24	7	2	16	13						33
	60～69	90	26	5	4	5	3			1			22
	70才以上	11	3			1							
合計	357	67	13	6	28	24	3	1	3	2			89

2. 胃部を除く二次検診受診結果

表5に示すとおり、胃部を除く要二次検診者は、1,014名で、総合検診受診者 2,625名の内、38.6%である。男性では 450名、37.0%、女性では 564名40.0%であった。

その内、二次検診を受診した者は 482名で、47.5%である。男性では 178名、39.6%、女性では 304名、53.9%であった。昨年の胃部を除く二次検診受診率は40.6%であった。

表5 胃部を除く二次検診結果

58年4月～59年5月末

性別	総合検診受診者	要二次検診者	要精検率	二次検診受診者	二次検診受診率
	(A)	(B)	$\frac{(B)}{(A)} \times 100$	(C)	$\frac{(C)}{(B)} \times 100$
男	1,214	450	37.0	178	39.6
女	1,411	564	40.0	304	53.9
計	2,625	1,014	38.6	482	47.5

表6は、胃部を除く二次検診受診結果の内訳を延件数で示したものである。

要二次検診件数1,253件の内、二次検診受診件数は556件であった。その内、異常なしは262

延件数によるもの

58年4月～59年5月末現在

表6 胃部を除く二次検診結果内訳

異常所見	要二次検診件数			二次検診受診件数			二次検診結果内訳								
	男	女	計	男	女	計	男			女			計		
							異常なし	要経過観察	要治療	異常なし	要経過観察	要治療	異常なし	要経過観察	要治療
循環器疾患	38	54	92	11	27	38	4	5	2	9	12	6	13	17	8
呼吸器疾患	20	11	31	10	8	18	5	5	6	5	2	1	10	7	1
肝臓及び胆道系疾患	127	175	302	59		59	21	32	6	39	50	6	60	82	12
血液疾患	87	46	133	34	25	59	24	7	3	15	5	5	39	12	8
血清疾患	60	35	95	22	21	43	18	2	2	14	3	4	32	5	6
脂質疾患	1	2	3												
糖尿嫌疑	36	23	59	13	15	28	3	10		5	8	2	8	18	2
甲状腺嫌疑		19	19		12	12				2	8	2	2	8	2
眼底疾患	17	24	41	8	10	18	1	5	2	1	8	1	2	13	3
腎及び尿路疾患	57	117	174	24	58	82	13	5	6	24	23	11	37	28	17
乳腺腫瘍嫌疑		10	10		5	5				3	2		3	2	
婦人科疾患		46	46		20	20				7	8	5	7	8	5
皮膚科疾患	1	1	2		1	1						1			1
便潜血陽性	113	131	244	24	49	73	13	9	2	35	10	4	48	19	6
高尿酸血症	1		1												
その他	6	6	12	1	4	5		1		1	2	1	1	3	1
計	563	690	1,253	206	350	556	102	81	23	160	141	49	262	222	72

件、47.1%、要経過観察は122件、21.9%、要治療は72件、12.9%であった。要治療者の中には、婦人科で5名の内、1名は子宮上皮癌であり、甲状腺腫2名の内1名は甲状腺癌、その他1名は左下顎部腫瘍で手術をしている。

ま と め

昭和57年度と比較すれば、胃部二次検診受

診率、胃部を除く二次検診受診率は、ともに高くなって来ている。59年度においては、農協の生活指導員並びに地域住民の健康管理に直接たずさわる市町村保健婦の協力を得て、当検診センター受診者に対する事後指導を積極的に行い、二次検診受診率の向上と共に継続受診の奨励を計る必要がある。